

第4期計画策定のポイント

上位計画である「新発田市まちづくり総合計画（令和6年3月策定）」との整合を図るとともに、国の「食育推進基本計画（第4次）」の内容を反映し、次のポイントを踏まえて策定しました。

(1) 「基本的施策1 産業の発展」をエンジンとした各施策の推進

開始から約15年が経過したこの取組をさらに効果的に進めるため、経済の好循環や所得向上の観点から市民・事業者の暮らしや取組意欲との関わりが強く、また、「オーガニックSHIBATAプロジェクト」による国内外への販路拡大など、新たなステージに入った「産業の発展」をエンジンとすることで、以下4つの基本的施策の推進を図り、市民、事業者及び市の一層の連携により取組全体の底上げを図ります。（下図参照）

(2) 「第2期 健康長寿アクティブプラン」と関連する取組の推進

市では、「食」「運動」「医療」「社会参加」の4つの分野で健康長寿の延伸に向けた取組を推進する「第2期新発田市健康長寿アクティブプラン」を令和6年度に策定しました。この内容を当計画にも反映させ、新発田の安全・安心な農産物の消費をはじめとする「食」と「食の循環」による健康増進の取組をさらに進めていきます。

(3) 「食とみどりの新発田っ子プラン」と関連する取組の推進

市では、「食とみどりの新発田っ子プラン」により、保育園等、小・中学校、家庭及び地域が連携し、「豊かな大地を基盤とした食のサイクル」の学びを体験する食育を通じて子どもたちの「生きる力」を育んでいます。当計画では、この食育を通じて健康や環境に配慮した当市の特色ある産業の取組についても理解を深めることで、新発田の「食」や「農」への関心や誇りを高めていきます。

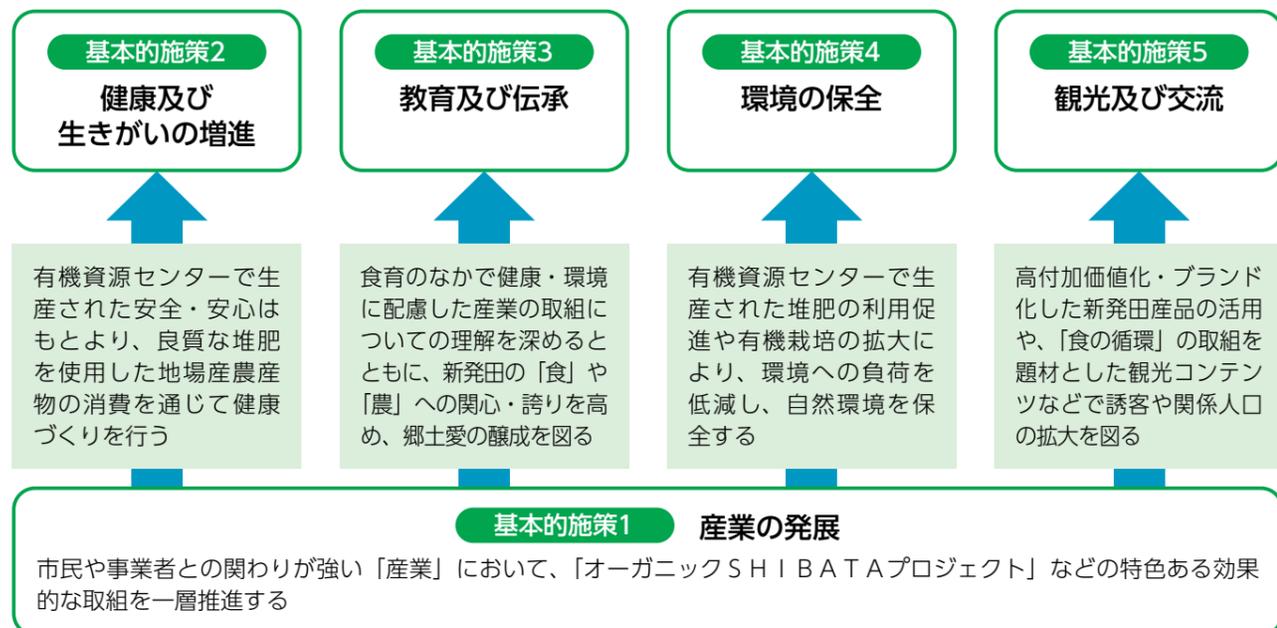
(4) 「新発田市地球温暖化対策実行計画」をはじめとする環境保全の取組の推進

市では、令和3年6月に「ゼロカーボンシティ」を宣言し、令和5年度に「新発田市地球温暖化対策実行計画」を策定しました。この計画に基づき、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進によるごみの減量や食品ロス削減の取組を着実に進めるとともに、有機資源センターで生産された堆肥の利用促進や、有機栽培の拡大などにより、「食」を育む豊かな自然環境を保全し、継承していきます。

(5) 「食」や「食の循環」を活用した関係人口を拡大する取組の推進

地方において人口減少が急速に進行するなかで、地域の活性化や持続可能なまちづくりを推進するためには、当市に継続的に関わる「関係人口」をより多く生み出すことが必要です。当計画では、高付加価値化・ブランド化した産品を活用して新発田の魅力を発信するとともに、当市の特色ある「食」や「食の循環」を題材としたスタディ・ツーリズムなどの観光コンテンツにより、誘客や関係人口の拡大を図ります。

【図】 「産業の発展」をエンジンとして他の施策を推進する考え方



第4期 新発田市

食の循環によるまちづくり推進計画

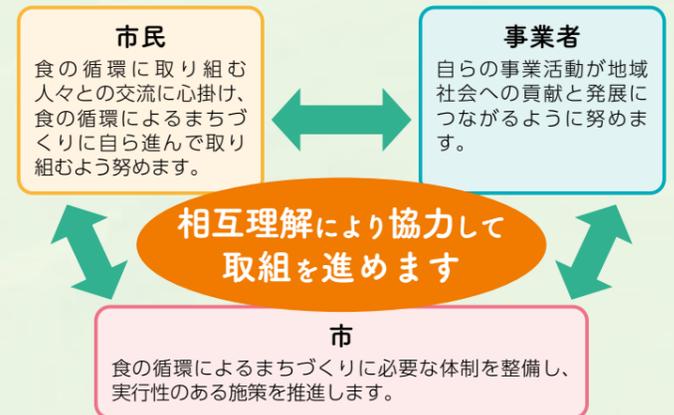


概要版

令和7年度～令和10年度

「食の循環」とは、「食」に関する営みが、農産物の栽培・収穫（生産）、加工、販売・購入（流通）、調理、食事、残渣処理、そして肥料（堆肥）づくりから土づくり（堆肥を大地に還元する）に至る一連の過程としてつながっていることを示しています。

新発田市では、その「食の循環」をまちづくりに活用し、市民、事業者及び市がそれぞれ主体となり、「5つの基本的施策」を推進することにより、『地域の活性化』、『市民生活の質の向上』及び『持続可能な循環社会の形成』につなげていきます。



「食の循環によるまちづくり」イメージ図



「食の循環によるまちづくり」を推進するために

食の循環によるまちづくりを推進するためには、「食の循環」の各過程における目的と取組を意識しながら「5つの基本的施策」を推進することが大切です。

下表では、「食の循環」の各過程と「5つの基本的施策」との関係を示しています。

「食の循環」の過程と目的		5つの基本的施策				
		1 産業の発展	2 健康及び 生きがいの増進	3 教育及び 伝承	4 環境の保全	5 観光及び 交流
肥料づくり・土づくり	堆肥を活用した土づくりの推進	●			●	
栽培・収穫	消費者を意識した安全・安心な農産物の生産促進	●		●		
加工	地場産農産物を使用した新たな農産加工品の開発促進	●				
販売・購入	地場産農産物や加工品・特産品の販路拡大	●				●
調理	食文化の継承と年代に応じた料理の習得		●	●		
食事	食への感謝と望ましい食習慣の確立・定着		●	●		
残渣処理	「食の循環」の浸透とごみの分別の徹底			●	●	
食の循環を活用	「食の循環のまち新発田」の定着					●

基本的施策1 産業の発展

関連するSDGsの目標



取組の方向性 未来につなぐ次世代型農業の推進と販路の拡大

- ◆有機栽培や商品開発による農産物や加工品の高付加価値化・ブランド化及び国内外の販路拡大
- ◆安全・安心な農産物の生産者育成等による供給量の確保
- ◆高品質な農産物の生産性向上を目的とした新技術についての調査研究
- ◆良質な堆肥の販売先拡大、高機能化、PRの強化
- ◆農福連携の推進による障がいのある人の就労の場拡大

主な取組と目標値

「食の循環」の過程	主な取組	成果指標	現状値	目標値 (R10年度)
肥料づくり・土づくり	農福連携等を通じた堆肥のPR及び販売促進	有機資源センターで生産した肥料の出荷量 (t)	7,090	7,300
栽培・収穫	環境保全効果の高い取組及び有機農業に対する支援	環境保全型農業事業取組面積 (a)	74,061	78,500
加工	商品開発、リブランディングなどへの支援	ブランド化の支援により市場に流通した商品数 (個)	28	57
販売・購入	地場産農産物及び加工品の国内外における販路拡大、供給量確保のための体制強化	産地育成計画対象品目の販売額 (千円)	674,595	680,000
		新発田DMO活動による輸出額 (千円)	62,259	95,044

市民の皆さんは…

- ・土づくりに関心を持ち、地場産品を利用しましょう。

事業者の皆さんは…

- ・堆肥を活用した土づくりで、安全・安心な農産物を供給しましょう。
- ・地場産農産物を活用した商品やメニューの開発に努めましょう。

市は…

- ・良質な堆肥の生産と利用促進に努めます。
- ・有機農業をはじめとする安全・安心な地場産農産物の生産や担い手の確保、育成を支援します。
- ・商品開発、販路拡大を支援します。

基本的施策2 健康及び生きがいの増進

関連するSDGsの目標



取組の方向性 「食の循環」を中心としたライフステージに応じた健康長寿の実践

- ◆乳幼児期～小・中学校期…子どもの望ましい食習慣の確立定着、保護者が食習慣を振り返る機会の拡充
- ◆青年期～壮年期…企業に属する従業員の健康増進とその取組に関する企業への支援、生活習慣病予防につながる食習慣の実践・支援
- ◆高齢期…生活習慣病及び低栄養の予防に関する啓発
- ◆全世代…安全・安心な地場産農産物の地産地消を通じた健康づくり

主な取組と目標値

「食の循環」の過程	主な取組	成果指標	現状値	目標値 (R10年度)
調理	栄養バランスの良い食事や健康づくりを意識した食生活の普及	栄養バランスのとれたレシピを掲載する市公式クックパッドの掲載1回あたりの平均閲覧数 (回)	4,432	6,000
食事	あらゆる機会を利用した望ましい食習慣の普及啓発	朝食をほとんど毎日食べている小学6年生の割合 (%)	91.4	93.0
		BMI (体格指数) 25.0以上の40-64歳の男性の割合 (%)	36.52	34.75

市民の皆さんは…

- ・安全・安心な地場産農産物の地産地消を心がけましょう。
- ・望ましい生活習慣を身に付けましょう。

事業者の皆さんは…

- ・安全・安心な地場産農産物を使ったメニューの提供や栄養成分表示等の情報提供に努めましょう。
- ・従業員の健康づくりに関する取組を進めましょう。

市は…

- ・健康寿命延伸の実現に向け、望ましい生活習慣の普及啓発を進めます。
- ・企業に属する従業員の健康増進と企業の取組を支援します。

基本的施策3 教育及び伝承

関連するSDGsの目標



取組の方向性 「食とみどりの新発田っ子プラン」を通じた「食」と「食の循環」への理解促進

- ◆保育園等及び小・中学校における新発田市オリジナルの食育「食とみどりの新発田っ子プラン」の推進
- ◆調理や栽培収穫等の体験活動及び地場産農産物を活用した学校給食を通じた「食」と「食の循環」への理解促進
- ◆新発田の「食」や「農」への関心・誇りを高めることによる郷土愛の醸成

主な取組と目標値

「食の循環」の過程	主な取組	成果指標	現状値	目標値 (R10年度)
栽培・収穫	農産物の栽培収穫体験、生産者との交流等	栽培収穫体験、学校給食使用食材の紹介、生産者との交流を行った校数 (校)	25	23 (全校)
調理	調理体験及び伝承料理の紹介等	小煮物 (のっぺ) を一人で作れる中学3年生の割合 (%)	21.5	29.0
食事	家庭における食育の推進等	家族の大人と一緒に食事 (夕食) をしている小学6年生の割合 (%)	94.9	95.0
残渣処理	「食の循環」を学ぶ機会の創出	有機資源センターへの学校給食残渣搬入量 (t)	52	48

市民の皆さんは…

- ・生産者や自然の恵みに感謝しましょう。
- ・地域の食文化を継承しましょう。
- ・望ましい食習慣を理解するとともに、食べ残しを減らしましょう。
- ・ごみの分別に努めましょう。

事業者の皆さんは…

- ・地場産農産物を広く発信しましょう。
- ・地域の食文化の継承に努めましょう。
- ・事業活動における生ごみの減量と、ごみの分別に努めましょう。

市は…

- ・「食の循環」による取組や「食とみどりの新発田っ子プラン」による食育を推進します。
- ・地域の食文化を知る機会を提供します。
- ・望ましい食習慣に関する正しい知識を習得する機会を提供します。
- ・食育を通じて、食べ残しの減量に取り組めます。

基本的施策4 環境の保全

関連するSDGsの目標



取組の方向性 「食の循環」を意識したごみの減量化と豊かな自然環境の保全

- ◆堆肥の販売先拡大、高機能化及び農福連携等を通じたPRによる、安全・安心な土づくりの推進
- ◆食品ロス削減の推進
- ◆3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進によるごみの減量化、脱炭素社会に向けた環境に配慮した取組の推進

主な取組と目標値

「食の循環」の過程	主な取組	成果指標	現状値	目標値 (R10年度)
肥料づくり・土づくり	高品質な堆肥の安定生産及び利用促進	有機資源センターで生産した肥料の出荷量 (t) (再掲)	7,090	7,300
残渣処理	3Rの推進によるごみの減量化	人口一人あたりの年間家庭可燃ごみ排出量 (kg)	168	165
		食べ物を残すことがもったいないと思う中学3年生の割合 (%)	78.2	80.0

市民の皆さんは…

- ・食品ロスの削減や3Rなど、環境に配慮した行動に取り組みましょう。
- ・有機資源センターの堆肥を活用した土づくりに関心を持ちましょう。

事業者の皆さんは…

- ・食品ロスの削減や生ごみ等の有機資源センターへの搬入に努めましょう。
- ・有機資源センターの堆肥を活用した土づくりに努めましょう。

市は…

- ・有機資源センターで良質な堆肥を生産し、土づくりを支援します。
- ・食品ロスの削減や3Rによるごみの減量・分別などにより、環境保全を推進します。

基本的施策5 観光及び交流

関連するSDGsの目標



取組の方向性 「食」や「食の循環」を活かした誘客・交流の推進

- ◆魅力的な「食」のイベントに企画運営及びPR強化
- ◆スタディ・ツーリズムなどの観光コンテンツ及びイベントを通じた「食の循環によるまちづくり」の発信と関係人口の拡大
- ◆ふるさと納税などを活用した「新発田」と「新発田産品」の魅力発信
- ◆市内事業者との連携による新発田の「食」の魅力発信の機会創出

主な取組と目標値

「食の循環」の過程	主な取組	成果指標	現状値	目標値 (R10年度)
販売・購入	新発田の「食」をテーマとしたイベントの開催	「食」をテーマとした主なイベントの参加者数 (人)	30,637	31,900
食の循環を活用	「食」や「食の循環」をテーマとしたスタディ・ツーリズムなどの観光コンテンツによる誘客及び関係人口拡大	「食の循環」を活用した修学旅行来訪者数 (人)	12	160

市民の皆さんは…

- ・「食」をテーマとしたイベントなどに積極的に参加し、地場産品や「食の循環」に対する理解を深めましょう。

事業者の皆さんは…

- ・来訪者へ新発田の「食」や「食の循環」をPRしましょう。

市は…

- ・「食の循環」に関連する事業や高付加価値化・ブランド化した商品の販売を支援します。
- ・「食」や「食の循環」の取組をPRし、誘客及び関係人口の拡大を推進します。